

社殿の扁額に歴史あり



盛岡八幡宮からあさ開方面に歩いていくと、十六羅漢手前の階段を上ったところに境内があり、さらに一段高いところに社殿があります。この社殿の北側が、天正年間に九戸政実の弟・中野康実が築城した中野館跡になっているそうです。

社殿の扁額には「松尾社」と書かれています。その扁額を書いたのは盛岡馬町（現・清水町）にある峯寿院住職で与謝蕪村に俳諧を学び、諸国を漫遊した新渡戸姫岳（きがく1760～1823）ではないかと言われています。姫岳の曾孫には、書家・俳人で教育者でもあった新渡戸仙岳（1858～1949）がおり、仙岳が盛岡高等小学校（現・下橋中学校）の校長であった時の教え子に金田一京助、石川啄木らがありました。

松尾神社というと、水の神様・大山昨神（おやまぐいのかみ）を祭神として、その湧き水（京都三名水の一つ・亀の井）をお酒に加えると腐らないといわれている京都の松尾大社が有名ですが、盛岡の裸参りの起源は、江戸中期にこの神社へ南部杜氏が祈願したことに由来すると言われており、やはりお酒と何か関係があるのかもしれませんが。

